

大町活性化

八子公通りが 元気になる日

皆さんは、かつての大町通りのにぎわいを覚えていますか。最近是人通りも少なく、シャッターが閉まっている店舗を見ると、とても寂しく感じていました。でも、元気な大町を取り戻そうと頑張る皆さんがいます。おまち八子公通りに名称が変わり、活性化に向けた取り組みが進む商店街を取材してみました。

現在の「おまち八子公通り」



No. 2 広報市民リポーターだより

リポーター

佐藤ミツ子さん

(萩野台1区)

私が大町商店街の店舗に勤めていた昭和50年代、通りは常に人通りが多く、休日にはたくさんさんの買い物客でにぎわっていました。

大館市史によると、大町は江戸時代から何百年もの伝統を踏まえた、町の商業の中心地だったそうです。まちなみは、東西に広がる周辺の専門店などを含め回遊して生活用品を贈えるため、多くのかたが訪れる場所でした。

相次ぐ大火に見舞われ、昭和31年8月には大町商店街も全焼、周辺町内もほとんど焼き尽くしましたが、力強く復興に立ち上がった多くの方々の手により、大町はにぎわいを取り戻します。昭和45年にはアーケードの設置、56年にはカラー舗道が敷かれ、さらに平成9年には電線の地中化工事により、商店街は電柱の無いきれいな景観へと変わってきました。

一方で、車社会の到来により、商業圏は次第に郊外へと分散されていきます。